



せせらぎ

令和4年7月20日
清瀬市立清瀬第四小学校
夏休み号
家庭数配布

1学期を振り返って

副校長 阿部 貴之

新しい学年になり、不安と喜びに満ちた顔で登校していた子供たち。4月、学校内を見回っていると、実はどの学年も落ち着かなく、けがや友達同士のトラブルの多いスタートだったのを覚えています。

それから早、4か月。成長したなど感じることを2点、お願いを1点、書こうと思います。

◆挨拶ができるようになった◆

今年度、校長をはじめ本校では職員が一丸となって、挨拶の徹底を重点的に行っています。教員自身が率先して挨拶することはもとより、どうしたら挨拶できる児童が増加するか真剣に考えて実践を行ってきました。どの先生も挨拶する。できない子がいたら指導を徹底する。挨拶をするとお互いがいい気持ちになることを実感させる。今までは、挨拶をされて返していたけれど、自分から進んで挨拶する習慣を身に付けさせる…。

全校朝会でも、校長の講話で挨拶ができているか子供たちに必ず振り返りをさせています。自分から進んで挨拶する子供は確実に増えました。「おはようございます!」「さようなら!」学校中に元気な挨拶が響き渡っており、とてもすがすがしい気持ちになります。挨拶には人と人との心をつなぐ魔法の力があります。学校同様、ご家庭においても挨拶の励行をご指導いただくと幸いです。

◆自分の言動を振り返ることができるようになった◆

たくさんの子供たちが1つの教室で生活する学校ですから、自分の思い通りにならないことも起こります。「ウザイ、キモイ、死ぬ。」こんな言葉で相手に気持ちが伝わるはずがありません。本当は何が嫌だったのか、何が原因でトラブルになったのか。トラブルに発展する経緯で必ず理由があるはずです。しばらく時間を置いて気持ちが落ち着いてくると、どんなことが原因でトラブルになったのか、自分の間違っていたところはどこなのかなどについて話すことができる子が増えました。

自分を振り返ることができたことは大きな成長だと思います。子供の生活においてトラブルはつきものです。しかし、自分で自分の行いを振り返り、しっかりと反省することは社会を生き抜く上で必要なスキルです。社会性が育っている証拠です。

大人は既に経験済みなもので、「こうすればいいのに。」と思いがちですが、子供たちはまさに今これを学んでいる最中なのです。子供たちの経験の芽を摘み取ることがないように、ぐっところえて見守っていきたいものです。

◆家庭学習はとても重要です◆

学校での授業だけで学習は身に付きません。家庭学習の習慣が身に付いている子は学力も高い傾向にあります。授業で学んだ内容を家庭で反芻することで記憶量が格段に上がるからです。さらに、保護者が子供の学習に関心があると子供の学力は高くなります。保護者が見てくれていると感じると子供は学習に対する意欲が向上するからです。嫌々取り組むのと進んで取り組むのとでは少しの間で大きな学力差となります。ぜひ夏休みを機に家庭学習を習慣化していただきたいです。

保護者の方々もお仕事が忙しく、なかなか関われないのが現状かもしれません。短時間でいいので、保護者の役割としてお子さんがどんな学習をしているのか保護者に関心をもったり、取り組んだ学習内容を確認したり、称賛したりしていただきたいです。